



100年の議論に決着 日本初 カムチャツカナニワズを道内で発見

林業試験場 保護種苗部 保護グループ 新田 紀敏
北見市在住 内田 暁友

カムチャツカナニワズの発見と公表

これまで日本にはないとされていたカムチャツカナニワズ(ジンチョウゲ科)を道東で初めて発見し、学術誌で発表しました。本種は1859年にロシアで新種発表され、日本では1915年に北大の宮部らが、当時の樺太にあるとしてカラフトナニワズの和名を与えました。以来どのような植物か、北海道にあるのかどうか研究者の間で議論されましたが、未決着でした。今回100余年ぶりにこの植物の詳細や北海道での分布を明らかにすることで、この議論に終止符を打ちました(右下年表)。



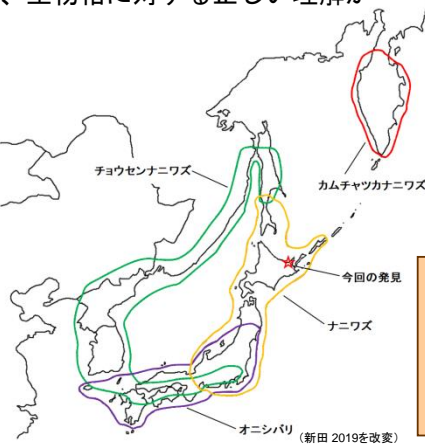
開花中のカムチャツカナニワズ

発見の意義

- 今回のような発見は、どのくらいあるものなのか？
 - ・最近10年間で道内から発見された植物は15種
 - ・最近100年間で道内から発見された樹木は5種
 - ・草本は時々見つかるが、樹木の発見は極めて珍しく60年ぶり
- 発見されるとどうなるか？
 - ・カムチャツカナニワズは分布・個体数が極めて限られているため、希少種として保護する必要があり、行政による保護策は分布が判明して初めて行われます。
 - ・名前がわからない生物は無視されがちですが、存在が知られると新たに発見され既知の分布が広がると期待されます。
 - ・日本の生物多様性が増加し、生物相に対する正しい理解が促進されます。

ナニワズ類の分類と分布

- ・世界で800種に及び常緑樹が多いジンチョウゲ科の中にあつてナニワズ類は落葉樹のグループで、極東アジアの日本海とオホーツク海を囲むように4種類が分布しています。
- ・カムチャツカナニワズはこれの中で最も北に分布し、これまでカムチャツカ地方の固有種とされてきました。



最近10年間に道内から発見された植物の例



カムイレイジソウ 2012年



セタナキンポウゲ 2019年
アサヒクワアザミ2013年

最近100年間に道内から発見された樹木

1959	ヤチカンバ	
1933	サカイツツジ	
1933	ヒダカミネヤナギ	
1932	ミヤマヤチヤナギ	
1927	ホロムイツツジ	

カムチャツカナニワズの詳細

- ・大きな特徴は白い花をつける(他のナニワズ類は黄色や緑色)
- ・花は他のナニワズよりも小さめ
- ・地下茎を持ち、離れたところに子株を作る(他のナニワズは地下茎がない)
- ・花は両性花のみをつける(他のナニワズは雌花と両性花)
- ・夏の落葉期が8月以降におよび、丸裸(いわゆる夏坊主)にならない。
- ・高さ50cmほどになる小低木で、広葉樹林下に生える。



ナニワズの花



夏坊主の状態

今後オホーツク海岸や太平洋岸のほか千島やサハリンからの発見が期待されます。

カムチャツカナニワズをめぐる議論の歴史

- 1859年 マキシモビッチ(ロシア)が新種報告
- 1915年 宮部金吾(北大)らが当時の樺太に分布するとし、カラフトナニワズと命名
- 1937年 中井猛之進(東大)が樺太ではなく、カムチャツカナニワズへの改称を提起
- 1955年 濱谷稔夫(東大)が分布を南千島、南サハリン、カムチャツカとし、北海道に分布するかは不明とした
- 1989年 村田源(京大)が紋別市で採集された標本は可能性があると報告
- 1999年 邑田仁(東大)が著書の中で、岨山(空知)の植物が近いと記した
- 2017年 米倉浩司(東北大)が最新の図鑑でよくわからないという扱いにしている
- 2020年(今回) 新田・内田が北海道斜里町に分布することを報告

発表論文: Noritoshi NITTA and Akitomo UCHIDA: *Daphne kamschatica* (Thymelaeaceae), a New Record for Japan from Hokkaido
新田紀敏, 内田暁友: 北海道から日本新産のカムチャツカナニワズ(ジンチョウゲ科)
The Journal of Japanese Botany/植物研究雑誌 Vol. 95 No. 6 2020年12月20日発行